



林野庁図書館ニュース

発行: 林野図書資料館

TEL: 03-3501-0964

2021年の我が国の木材の需要量と供給量を示す木材需給表を公表しました

令和3年(2021年)の木材の総需要量は8,213万2千立方メートルとなりました。前年と比較すると769万3千立方メートル(10.3%)増加し、総需要量は令和元年(2019年)と同水準まで回復しました。

国内生産量は、製材用材等の増加により3,372万3千立方メートルとなりました。前年と比較すると257万4千立方メートル(8.3%)増加し、平成22年から12年連続で増加しています。

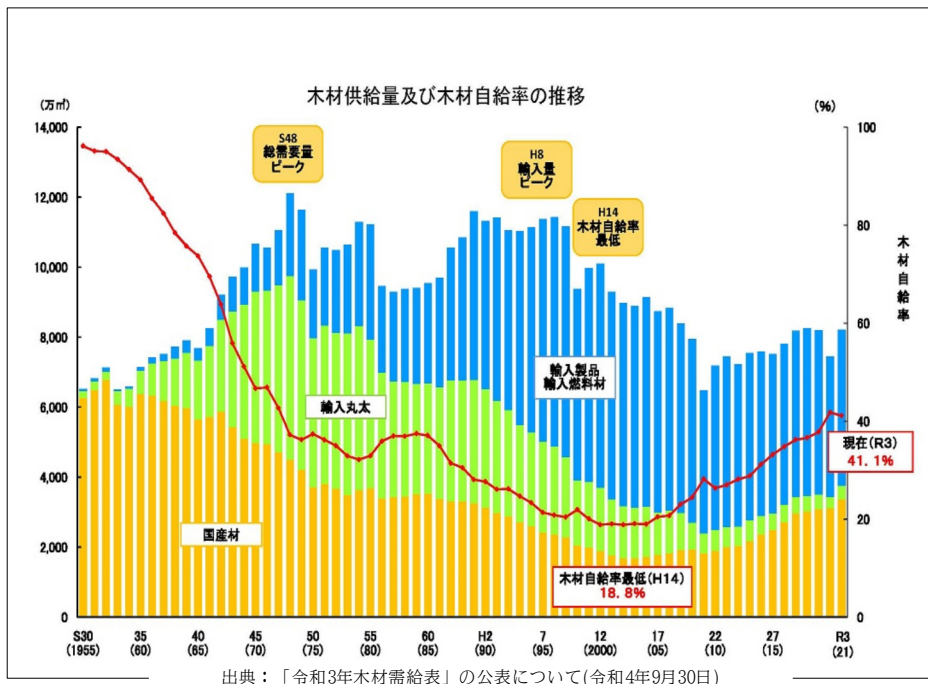
輸入量は、パルプ・チップ用材、燃料材等の増加により、4,840万9千立方メートルとなりました。前年と比較すると511万9千立方メートル(11.8%)増加しました。

木材自給率は41.1%となりました。前年と比較すると0.7ポイント低下しました。このうち、建築用材等の自給率は48.0%で、前年と比較すると0.8ポイント上昇しました。



2021年木材需給表の詳細は、次のURLをご覧ください。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuzai_zyukyu/index.html



「森林業循環活用図」をご活用ください！

日本は国土の約3分の2を森林が占めており、その4割は人が木を植えて育てた人工林です。人工林は〈伐って、使って、植えて、育てる〉というサイクルの中で「二酸化炭素(CO₂)を吸収・固定して地球温暖化の防止、国土を災害から守る、木材として人々の暮らしを支える」など様々な役割を果たしています。現在、人工林の多くが本格的な利用期を迎えており資源量は年々増加していますが、木材の利用が十分に進んでいない現状があります。木材を使うことは人工林のサイクルの一部であり、持続的なサイクルを保つためにとても大切なことです。



イラスト: 平田美紗子

この〈伐って、使って、植えて、育てる〉サイクルがよくわかる「森林業循環活用図」が完成しました。あわせて、森林の循環利用とSDGsとの関係が一目でわかるイラストもご用意しました。二つのイラストは並べるとより一層理解を深めていただける仕上がりとなっております。林野図書資料館のホームページからダウンロードができますので、イベントや授業などでぜひご活用ください！

(SDGsとの関係性がわかるイラスト)



イラストのダウンロードはこちら ↓

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tosyo/manga.html#junkan>



林野図書資料館企画展示 開催中

11月30日(水)まで

図書館ではただ今、「おおきな森のちいさな生きもの」をテーマとした図書資料の展示を行っています。森の中はふしぎな生きものでいっぱい。きのこなどの菌類も、苔や地衣類も、虫も、小さな木の実も、みんな生きています。木を枯らしてしまう昆虫もいれば、植物と共生する菌類もあります。ちいさな彼らも地球上の生態系の一部です。森林や里山の雑木林を歩くと、ちょっとそのあしもともにも目を向けてみてはいかがでしょうか。図書館では、関連図書を展示して、皆さまのお越しをお待ちしております。



新着図書・注目図書のご案内

林野図書資料館では、定期的に図書資料を購入しております。新着の図書や注目図書の一部をご紹介します。紹介した図書資料は、館内新着棚若しくは書架に配架しております。是非、ご来館いただきご利用ください。



タイトル：森の経済学
森が森らしく、人が人らしくある経済
 著者名：三俣 学・齋藤暖生
 出版社：日本評論社
 内容要約：森林破壊を食い止め、自然と人の営みを調和させるにはどうしたらよいか。エコロジー経済学の視点から考える。
 (2022年7月発行)

NEW



タイトル：樹木の恵みと人間の歴史
石器時代の木道からトトロの森まで
 著者名：ウィリアム・ブライアント・ローガン
 訳者名：屋代通子
 出版社：築地書館
 内容要約：米国を代表する育樹家が、世界各地を旅し、1万年にわたって人の暮らしと文化を支えてきた樹木と人間の伝承を掘り起こし、現代によみがえらせる。
 (2022年5月発行)

NEW



タイトル：カーボンニュートラル
 編集者名：野村総合研究所
 出版社：日経BP日本経済新聞出版
 内容要約：菅前首相は所信表明演説で「2050年までのカーボンニュートラル」を打ち出した。欧州ではコロナ禍をきっかけに環境対策をさらに進めようとする「グリーンリカバリー」が進み、米国でもバイデン氏の大統領就任によってパリ協定への復帰が見込まれるなかでの発表だった。出遅れた日本は、企業の対策も突然まったなしとなったわけだが、「2030年度には13年度比で46%減らす」目標が追加され、カーボンニュートラルに向けた動きは、さらにヒートアップしている。
 本書は、こういった最新の動きを、考えの基本から実行の現場まで、体系的にまとめた1冊。
 (2022年6月発行)

注目!



タイトル：地球温暖化で人類は絶滅しない
環境危機を警告する人たちが見過ごしていること
 著者名：マイケル・シェレンバーガー
 訳者名：藤倉 良、桂井太郎、安達一郎
 出版社：化学同人
 内容要約：確かに地球は温暖化している。それは止めなければならない。だが、温暖化だけで人類が絶滅するわけではない。先進国の環境アラームが推し進めようとする環境対策は、開発途上国に必要な経済発展を阻害し、むしろそれが地球の環境を悪化させる。長く環境運動に取り組み、世界各地の実情を見てきた著者が、IPCC報告書等の科学的知見に基づき、真に実効的な環境保全の道を示す。アラームと懐疑論を超える、注目の全米ベストセラー。
 (2022年7月発行)

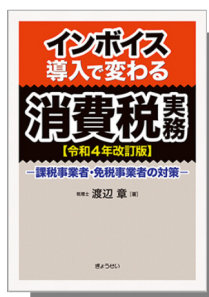
注目!



タイトル：サステナブルに家を建てる
 著者名：服部雄一郎・服部麻子
 出版社：KTC中央出版
 内容要約：高知在住の翻訳者・服部雄一郎さんと麻子さん夫妻による、環境に配慮した「エコでサステナブルな家づくり」を紹介する一冊。素材や工法、エネルギー効率、住まい方など、新築のみならずリノベーションにも役立つ情報が満載。
 (2022年6月発行)



タイトル：薪ストーブライフNo.45 (最新号)
 出版社：沐日社
 内容要約：
 ・特集 庭に持ち出せ 火のある生活
 ・超対談 木質バイオマスヒーターの未来 前編「まずは現状把握」
 ・薪を販売している森林組合&薪店一覧 等
 (2022年7月発行)



タイトル：インボイス導入で変わる消費税実務
【令和4年改訂版】
一課税事業者・免税事業者の対策
 著者名：渡辺 章
 出版社：ぎょうせい
 内容要約：令和5年10月導入、インボイスの社内準備・取引先交渉の決定版。【改訂のポイント①：課税事業者&免税事業者の判断ポイント】【改訂のポイント②売手側&買手側の最終準備がわかる】
 (2022年7月発行)



タイトル：会議の成果を最大化する
「ファシリテーション」実践講座
 著者名：大野栄一
 出版社：日本実業出版社
 内容要約：リピート率9割の「すごい会議」公式コーチが本番の冒頭5分、意見の引き出し・まとめ・決定、クロージングを進行に沿って解説。事前準備を詳しく、会議と会議の間のブリーフィング、進捗会議の重要性も伝える。グラフィック技術やオンライン会議等も説明する。
 (2022年7月発行)

連絡先：林野庁 企画課 林野図書資料館（国立国会図書館支部林野庁図書館）

代表：03-3502-8111（内線6060）ダイヤルイン：03-3501-0964

HP：<http://www.ninya.maff.go.jp/j/tosyo/index.html>

